

2025年（令和7年）5月27日
地域懇談会

ひらふスキー場駐車場周辺エリア (シンボル空間) に係る課題解決の考え方

目次

1.これまでの検討経緯

2.ひらふスキー場駐車場周辺エリアの課題

課題 1 : 第1駐車場の安全性の確保

課題 2 : アッパーヒラフの交通混雑の解消

課題 3 : シンボルとなる施設・空間形成

3.課題への対応方向

課題への対応方向

ハード対策

ソフト対策

4.施設配置と整備の進め方

土地利用と導入機能

施設整備の進め方

段階的事業

5.今後の進め方

1.これまでの検討経緯

これまでの検討経緯

2016年度（H28）～2019（R1）

「ひらふ地区駐車場再整備に係る有識者会議」

2020年度（R2）

「ひらふスキー場第1駐車場整備方針」策定

- ・民間事業者による来訪者対応施設の再整備等と合わせて、駐車場やバスプールなどの交通結節点や広場空間などを含めた整備の方向性を整理。

2021年度（R3）

「ひらふスキー場第1駐車場における交通結節点及び観光拠点基盤整備検討調査」

- ・施設整備・運営について、公民連携による事業手法導入に一定の市場性があることを確認
- ・民間事業者から、直接的な提案機会の要望あり。

これまでの検討経緯

2022年度（R4）

「ひらふスキー場駐車場に関するサウンディング調査」実施

- ・民間事業者からの提案、意見交換を実施。
 - 第1駐車場のみならず周辺も含めた包括的な再整備によるエリア価値向上を図ることが必要。
 - 計画段階から開発事業者や民間事業者の知見を活用した検討が必要。

2023年度（R5）

「ひらふスキー場駐車場整備方針」改定

- ・「ひらふスキー場第1駐車場整備方針」を周辺も含めた包括的な再整備によるエリア価値向上を図るための方針に改定。



※2023～2024年度は関係機関協議、土地利用調整、各種実態調査を実施

本日お伝えしたいこと

- **安全対策最優先**
- **宿泊施設送迎乗換の物理的現実**
- **再整備は段階的**
- **ランドマークとなるデザイン**

2. ひらふスキー場第1駐車場周辺エリア (シンボル空間) の課題

課題 1 : 第 1 駐車場の安全性の確保

- 第 1 駐車場（ひらふウェルカムセンター前）は、現在、路線バスの走行レーン、ツアーバスや送迎車の乗降所、タクシーや送迎車の待機所が一般駐車場と施設的に非区別。
- 冬季間は駐車場内が大変混雑し、特に歩行者にとって非常に危険な状況。



車両と歩行者の区分がなく危険な現状 ↓



← 第 1 駐車場車両配列図 (23-24シーズン)

課題 1 : 第 1 駐車場の安全性の確保

- 車両走行レーンと歩行者レーン設置による歩車分離、及び路線バス・ツアーバス・送迎車・タクシーなどの乗降場や待機所と一般車両との施設の分離が必要
- 一方で、路線バスやシャトルバスに加えて、現状流入している全ての送迎車両（約40台）への安全な乗降を確保するためには、今よりも格段に広大なスペースが必要



車両と歩行者の区分がなく危険な現状 ↓



← 第 1 駐車場車両配列図 (23-24シーズン)

課題 2 : アッパーヒラフの交通混雑の解消

- アッパーヒラフの第1・第2駐車場、民間駐車場は慢性的に混雑。
- 駐車車両の入庫待ちや送迎車等の路上待機、従業員の出退勤時間における車両集中、多くの路線バス・民間バス・送迎車両が第1駐車場に集中するなどにより周辺道路への交通障害が発生。

駐車場の混雑（第1駐車場）



周辺道路の混雑（道道343号）
【2023-24シーズン】



課題 2 : アッパーヒラフの交通混雑の解消

- 今後、第2駐車場敷地への水道施設整備による駐車台数の減少、倶知安IC供用により、交通混雑の激化が懸念。
- アッパーヒラフにおける適切な駐車容量の確保と車両流入の抑制等の対策を並行的に実施し、早期の課題解決を図ることが必要。**

駐車場の混雑（第1駐車場）



周辺道路の混雑（道道343号）
【2023-24シーズン】



課題3：シンボルとなる施設・空間形成

- ニセコひらふ地区は、海外リゾートと比較して、シンボルとなる施設や人が集う広場空間が不足。
- ひらふウェルカムセンターは、施設の狭隘化と老朽化が進んでいることや開業期間がスキーシーズンのみであることから、シンボルとなる施設としての機能向上が求められる。
- 第1駐車場やひらふ高原中央公園は、イベントに活用されているが、必要な施設整備がなされていないため、十分な賑わいを創ることが難しい状況。
- 町と民間事業者が連携して、**最も人が集まるリゾートコアとして必要な機能を配置することにより、オールシーズンで賑わいを形成するエリア（＝シンボルとなる空間）へ発展させることが必要**

拠点施設の狭隘化・老朽化
(ウェルカムセンター内部)



第1駐車場でのイベント開催状況
※傾斜により物品設置が大変な現状

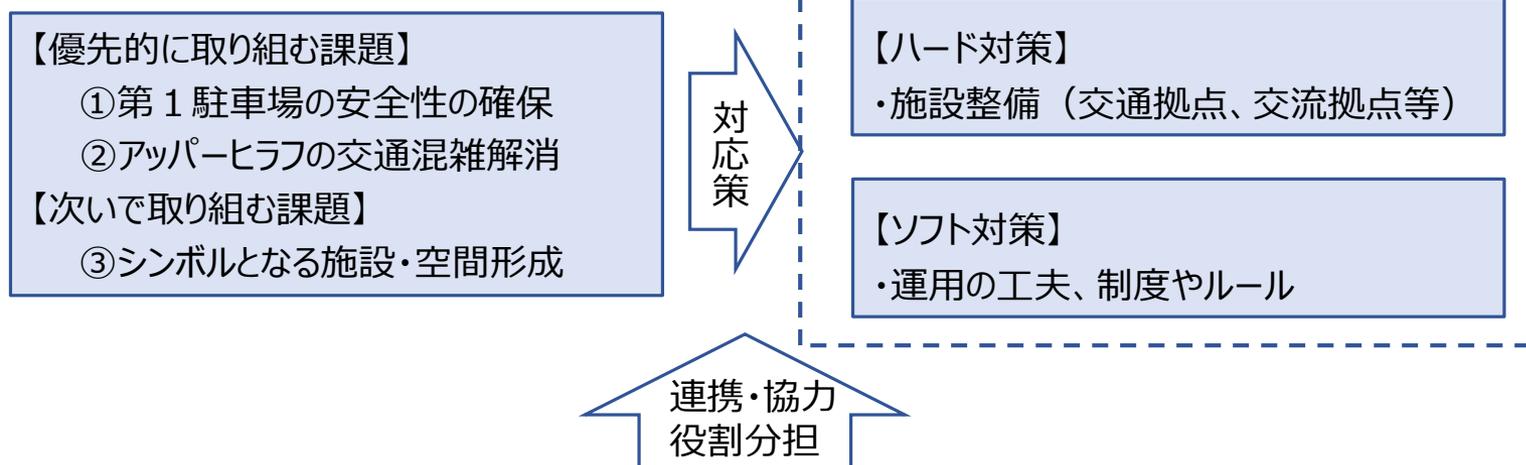


3. 課題への対応方向

課題への対応方向

- 課題への対応は、多くの時間、費用を要することが想定され、全てを同時に進めることは困難。
このため、**課題の優先性を考慮し、段階的に対応**。
- 施設整備等によるハード対策と交通マネジメント等、各種の運用によるソフト対策の両面からアプローチすることが必要不可欠**であり、一方からのアプローチのみでは課題への十分な対応は困難。
- 行政機関のみでは十分な効果をあげることが困難であり、観光団体、地域団体、スキー場事業者、バス事業者、宿泊事業者、スキー場利用者、従業員等の**対象地区に関わる全ての関係者の連携・協力・役割分担により取り組むことが必要**。

課題への対応方向のイメージ



行政、観光団体、地域団体、スキー場事業者、バス事業者、宿泊事業者、スキー場利用者、従業員等

- シンボル空間整備にあたっては、課題の解決を図りつつ、観光客（ゲスト）と住民（ホスト）がともに楽しめることに加えて様々な交流が促進される場の形成を目指す。

【整備コンセプト】

世界水準のオールシーズン型国際リゾートエリアの中心地区として、ゲストとホストが快適な時間を過ごし、様々な交流が促進される空間の形成

【整備方針】

【方針 1】安全性の高い「交通拠点」の形成と機能強化

【方針 2】利用客優先の駐車場整備

【方針 3】観光客と住民の満足度や利便性、交流を支える機能の導入

【方針 4】シンボル空間としての「広場機能」の整備

■ 歩行者と車両が施設的に分離したバス乗降場の整備

- バスレーン、車路、歩行者レーンなど歩行者とバス・一般車両が施設別に区分されたバス乗降場を整備。

車両と歩行者（利用者）が区分された乗降場



歩行者と動線が分離した専用の車路



■ 待合空間、観光案内所等の整備

○十分な広さのバス待合の他、観光案内所やツアーデスク、物販・飲食施設等を利用者の利便性の向上を図る施設の整備。

バス待合に隣接して物販・飲食スペースを配置



バス待合に隣接した観光案内所



■ 適正規模の公共的駐車台数の確保

- 現在のひらふスキー場における公共駐車場は、冬季間約690台が駐車可能だが、第2駐車場の一部に水道施設（新中区配水池）を建設するため、**このままだと駐車台数が減少**。
- 第2駐車場の立体駐車場化など駐車場の新規整備や再整備を官民連携により実施し**公共的駐車台数を現状より約1割程度増加**することを目指す。

現状 約690台

第1駐車場（ひらふウエルカムセンター前）
第1駐車場（旧アルペンホテル前）
第1駐車場（シャレーアイビー上部）
第2駐車場
サン・スポーツランド臨時駐車場

新規整備
再整備

1割増 約760台

第1駐車場（ひらふウエルカムセンター前）
第1駐車場（シャレーアイビー上部）
第2駐車場（立体駐車場：民間整備想定）
ひらふ高原中央公園駐車場
サン・スポーツランド臨時駐車場

■ 景観に配慮した駐車場の整備

○シンボル空間は、賑わい創出や視点場の役割を担う。公共駐車場整備にあたっては、海外リゾートで配慮されている、グリーンシーズンの修景を考慮して事業を推進。

■ 代替駐車場の確保や段階的整備による整備期間中の駐車台数確保

- 公共駐車場工事期間中には、駐車可能台数が減少し、スキー場利用者の利便性を損ねることを懸念
- 公共駐車場整備にあたっては、**代替駐車場の確保や段階的整備を図ることにより、一定の駐車台数を確保しながら事業を段階的に推進。**



↑ 複層駐車場の上部が広場になっている→



← 景観に配慮した駐車場例 ↓



■ 中長期滞在客の滞在満足度を高める機能の導入

○町と民間事業者の連携や役割分担により、中長期滞在客の滞在満足度を高める機能の導入。

■ 住民が日常的に気軽に利用できる空間・機能の導入

○町と民間事業者の連携や役割分担により、住民が日常的に利用できるコミュニティスペース等の機能導入

■ 様々な交流が促される空間・機能の導入

○町と民間事業者の連携により、多種多様な交流が促進される空間づくりの推進。

エリアの食にふれることのできるマーケット



住民が気軽に利用できるスペース



ハード対策 方針4：シンボル空間としての「広場」の整備

■ 季節ごとの様々なイベントを開催できる快適な広場空間の整備

○季節ごとの様々なイベントを開催できる快適な広場空間を整備し、賑わいの創出と交流を促進。

■ 羊蹄山を背景に記念撮影のできる視点場の整備

○羊蹄山を背景に記念撮影のできる視点場を整備し、観光資源の付加価値や観光客の満足度を向上。

観光交流施設と隣接したイベント利用できる
広場空間



記念撮影できるスポット



- 冬季間慢性的に混雑し、スキー場利用者の利便性を損ねている一因として、従業員等の事業系車両の駐車と各宿泊施設の送迎車両の流入集中がある。
- 施設整備と併せて、以下の実施により、利用者優先の安全で円滑な交通及び駐車環境を形成。

■ ひらふスキー場駐車場の有料化

- ひらふスキー場駐車場の再整備が一定程度進捗した後は、スキー場利用者と利用者以外の駐車エリアの分離やアップーヒラフへの流入車両削減、駐車場等施設の維持管理財源の確保を図るため、**冬季間有料化**を推進。
- 「倶知安町スキーの町宣言」を鑑み、**町民利用に対して利用料金・町民用スペースなど一定の配慮** → **ただし、2024-25実証の結果から課題あり※**

※2024-25シーズン

- ・エース側だけで100台以上が従業員車両（町民スペースにも駐車）
- ・ガイド兼送迎のような事業系車両やキング側での従業員駐車をあわせると、200台程度は従業員・事業系車両が駐車と推測

- 冬季間慢性的に混雑し、スキー場利用者の利便性を損ねている一因として、従業員等の事業系車両の駐車と各宿泊施設の送迎車両の流入集中がある。
- 施設整備と併せて、以下の実施により、利用者優先の安全で円滑な交通及び駐車環境を形成。

■スキー場利用客以外の車両のアップーヒラフ外への誘導

- ひらふスキー場駐車場の再整備と並行して、スキー場利用客以外の車両は、従業員向けパーク&ライドやサン・スポーツランド臨時駐車場などアップーヒラフ外の駐車場に誘導
- これらの駐車場利用者の利便性を確保できるようひらふ無料循環バスなど、公共交通の機能強化を図る



サン・スポーツランド駐車場

■ 宿泊施設の送迎車両の流入抑制の工夫

- ① 宿泊施設とスキー場ゲレンデ間の送迎
 - ② 空港バス等との乗換に伴う宿泊施設とバス乗降場間の送迎
- 空港バス到着時に集中する全ての送迎車両（40台程度）に安全に対応するスペースはひらふ駐車場には無い

○ アッパーヒラフの混雑緩和と駐車場の安全確保に向けて、宿泊、バス、物流事業者等に協力を求めながら対応が必要



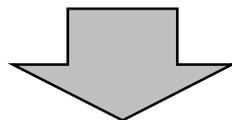
① 宿泊施設とスキー場ゲレンデ間の移動は、原則、ひらふ無料循環バスの活用に誘導。

・宿泊事業者による送迎車両の運行低減に向けて町とDMOは利用者の利便性向上を図るため、循環運行ルート、停留所、運行頻度等、これまで以上のサービス水準向上を図る。



② 空港連絡バス等との乗換に伴う宿泊施設とバス乗降場間の送迎車両の乗入抑制

- ・無料循環バスによる宿泊施設への移動を促す。
- ・空港バス利用者の宿泊施設への利用者自身の移動と荷物輸送の分離を図る。

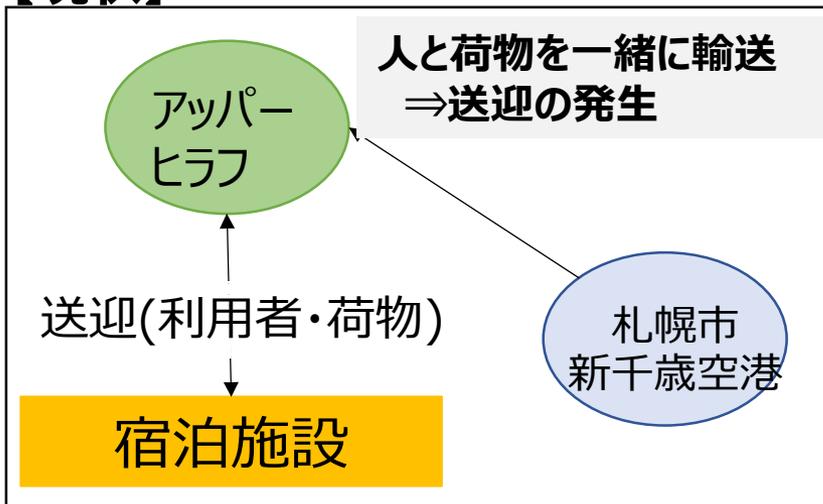


利用者自身はウェルカムセンター到着後、旅程に応じてスキーをしたり街歩きをしたり無料循環バスで宿に直行したりと行動の選択が可能。荷物は民間の荷物配送サービスにより宿泊施設まで配送。

・空港バスから宿泊施設への直接送迎をどうしてもサービスとして希望する事業者に対しては、アッパーヒラフ外を乗換ポイントとした送迎の提案

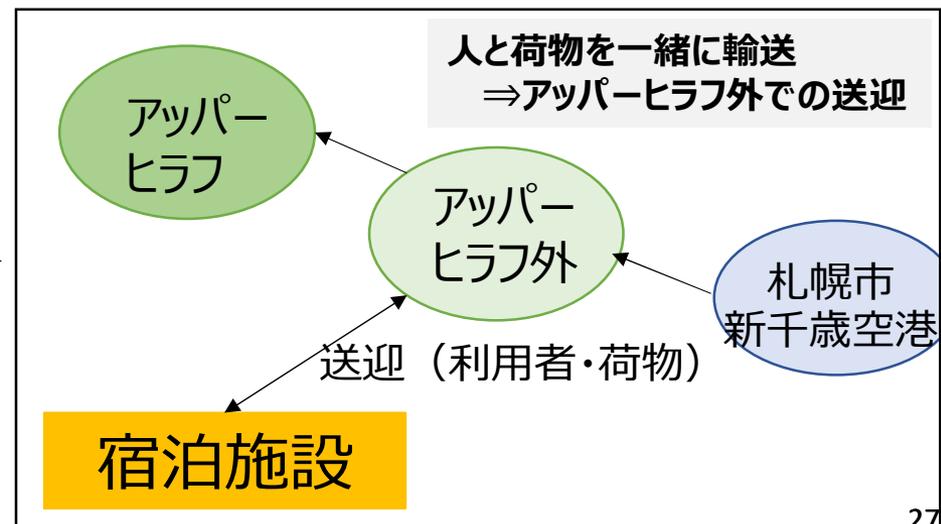
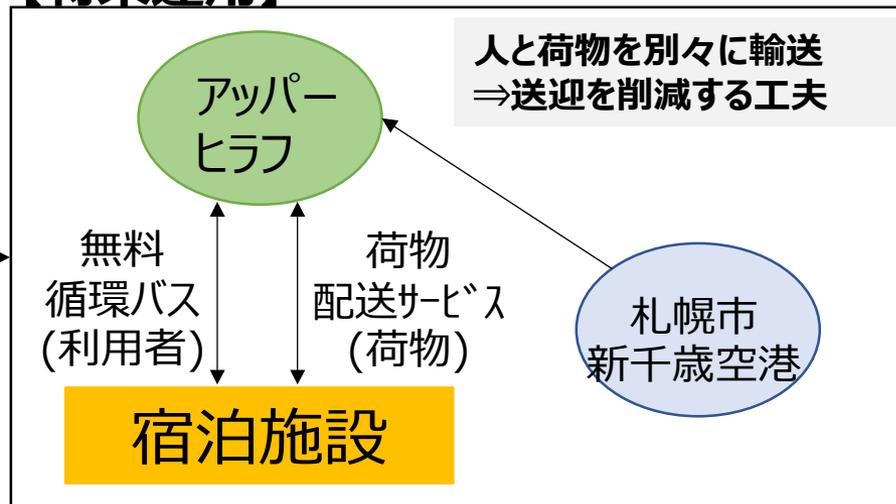
送迎に関する将来運用イメージ

【現状】



※以前の説明会で、第1駐車場への空港バス乗入への疑問意見あり
 →スキー場至近の宿泊施設の利便性やすぐにスキー・スノーボードをする需要を考えると、第1駐車場への乗入は必要
 →バスの乗入が課題なのではなく、『送迎車両の集中が課題』であるため、再整備にあたり運用を検討中

【将来運用】



4. 施設配置と整備の進め方

土地利用と導入機能

- ひらふ坂沿道に、交通拠点機能、観光交流機能、賑わい機能を配置
- ひらふ高原中央公園は、配置機能を駐車機能、賑わい機能に変更



※導入施設の内容については現時点の想定であり、今後の検討により変更となる可能性があります。

施設整備の進め方（段階的整備）

- 現状直面している喫緊の課題解決を最優先とし、官民連携の上、可及的速やかに着手。
- 上記完了後、まちづくりの視点から賑わいや景観形成などエリア高質化に向けた事業推進
- 第1期～第3期の3段階による事業の実施。

【起点】

ひらふスキー場第2駐車場への上水道新中区配水池整備による駐車可能台数減少

<優先的課題の解決>

第1期事業

【目的】

適正な公共駐車台数の確保

【施設整備】

- ・ひらふ高原中央公園駐車場(公共)：平面駐車場【暫定】
- ・第2駐車場(民間)：立体駐車場

施工中の機能減少や財源に考慮して
玉突きでの段階的再整備

第2期事業

【目的】

適正な公共駐車場の台数確保、交通・歩行者の安全性確保、シンボル空間の賑わい形成

【施設整備】

- ・交通拠点・観光交流複合施設（公共・民間）
- ・第1駐車場（公共）：平面駐車場【暫定】
- ・賑わい施設（民間）：現第1駐車場(旧アルペンホテル前)

<エリアの高質化>

第3期事業

【目的】

シンボル空間の高質化（賑わい形成、景観形成など）

【施設】

- ・イベント広場(公共)：第1駐車場【暫定】を転用
- ・賑わい施設(民間)：ひらふ高原中央公園平面駐車場【暫定】を転用
- ・ひらふ高原中央公園駐車場(公共)：立体駐車場（上記減少を補填）

段階的事業（第1期事業） ※優先的課題の解決

○第1期事業は、喫緊の課題である第2駐車場の水道施設整備による駐車台数減少を補う

- ①ひらふ高原中央公園を平面駐車場（暫定駐車場）として整備（公共）
- ②第2駐車場用地を活用した立体駐車場の整備・運営（民間）



※導入施設の内容については現時点の想定であり、今後の検討により変更となる可能性があります。

段階的事業（第2期事業） ※優先的課題の解決

- 喫緊の課題である利用者の安全性・利便性の確保を図るとともに適正な公共駐車台数確保。
交通拠点・観光交流複合施設（公共・民間）、平面駐車場（暫定）（公共）
- 交通拠点・観光交流複合施設と連動したまちづくりを進めるため、
ひらふ坂に賑わい施設を誘致。（民間）

ゾーンA

- 交通拠点・観光交流複合施設（公共・民間）【新設】
 - ・バス・タクシー乗降場
 - ・送迎車両乗降場
 - ・バス・タクシー待合
 - ・多目的交流空間
 - ・観光案内所
 - ・地域情報コーナー
 - ・物販・飲食施設
 - ・リゾート連携施設（医療、荷物配送など）など
- 平面駐車場[暫定]（公共）【再整備】

ゾーンB

- 賑わい施設（民間）【新設】



ゾーンE

- 立体駐車場（民間）【既設】

ゾーンC

- 平面駐車場[暫定](公共)【既設】
- 平面駐車場[暫定]増設（公共）

ゾーンD

- 平面駐車場（公共）【既設】

段階的事業（第3期事業） ※将来的エリアの高質化

- 喫緊の課題解決を図った後に、エリアの高質化を図るため、賑わい形成や景観形成などを実施。
- 事業の着手時期は、まちづくりの視点から地域や民間事業者との意見交換を行いながら、事業を取り巻く各種環境を考慮して決定。

※第3期は少し将来的なフェーズとなる



※導入施設の内容については現時点の想定であり、今後の検討により変更となる可能性があります。

ランドマークとなるデザイン

○ニセコひらふ地区で多くの人を訪れる公共的な空間であることから、建物はまちづくりの景観デザインのひとつの指標になってくる。どのようなデザインが好ましいか？



※画像は生成AIによる提案

ランドマークとなるデザイン

- ニセコひらふ地区で多くの人々が訪れる公共的な空間であることから、建物はまちづくりの景観デザインのひとつの指標になってくる。どのようなデザインが好ましいか？



※画像は生成AIによる提案

ランドマークとなるデザイン

- ニセコひらふ地区で多くの人を訪れる公共的な空間であることから、建物はまちづくりの景観デザインのひとつの指標になってくる。どのようなデザインが好ましいか？



※画像は生成AIによる提案

ランドマークとなるデザイン

○ニセコひらふ地区で多くの人を訪れる公共的な空間であることから、建物はまちづくりの景観デザインのひとつの指標になってくる。どのようなデザインが好ましいか？



※画像は生成AIによる提案

ランドマークとなるデザイン

- ニセコひらふ地区で多くの人々が訪れる公共的な空間であることから、建物はまちづくりの景観デザインのひとつの指標になってくる。どのようなデザインが好ましいか？



※画像は生成AIによる提案

5. 今後の進め方

今後の進め方

- 関係機関との意見交換を継続
- 令和7年秋頃を目途に、ひらふシンボル空間整備基本計画（案）のとりまとめを行い、地域説明会を予定
- 説明会実施以降、ひらふシンボル空間整備基本計画の策定・公表
- 令和7年度中に第1期事業着手（設計）及び第2期事業の準備を実施。

■当面のスケジュール

令和6年度

令和6年12月 関係機関との意見交換継続
(観光団体、交通・宿泊事業者など)

令和7年度以降

令和7年春 ひらふスキー場駐車場周辺エリア（シンボル空間）の課題解決の考え方に関する地域懇談会の開催

中央公園平面駐車場設計着手（第1期事業暫定部分着手）

令和7年秋頃 ひらふシンボル空間整備基本計画（案）に関する地域説明会

説明会以降 ひらふシンボル空間整備基本計画の策定・公表

令和7年度以降 第2期事業準備（事業者公募準備、公募・選定）